

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number : 08-081335

(43) Date of publication of application : 26.03.1996

(51) Int. CI.

A61K 7/025

(21) Application number : 06-247147

(71) Applicant : KANEBO LTD

(22) Date of filing : 13.09.1994

(72) Inventor : FUJIMOTO KATSUYUKI
SATOU NORIMASA

(54) OILY LIP COAT

(57) Abstract:

PURPOSE: To obtain an oily lip coat for applying on rouge inhibiting color transferring of rouge to a cup made of glass or pottery without drying touch.

CONSTITUTION: This oily lip coat comprises at least one kind of dimethylpolysiloxane having a viscosity of 10-300cs at 25° C, at least one kind of an oil-soluble oil and a dimethylsilylated silicic anhydride. Mixing amount of each component in the oily lip coat is: the dimethylpolysiloxane having a viscosity of 10-300cs at 25° C is 90.0-98.0wt.%, the oil-soluble oil is 1.0-20.0wt.% and the dimethylsilylated silicic anhydride is 2.0-10.0wt.%.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C) ; 1998, 2003 Japan Patent Office

(51)Int.Cl.⁶

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

A 61 K 7/025

審査請求 未請求 請求項の数2 FD (全3頁)

(21)出願番号	特願平6-247147	(71)出願人	000000952 鐘紡株式会社 東京都墨田区墨田五丁目17番4号
(22)出願日	平成6年(1994)9月13日	(72)発明者	藤本 克幸 神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 鐘紡株式会社化粧品研究所内
		(72)発明者	佐藤 昇正 神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 鐘紡株式会社化粧品研究所内

(54)【発明の名称】油性リップコート

(57)【要約】

【構成】25℃における粘度が10～300c sであるジメチルポリシロキサンの少なくとも1種と、油溶性の油の少なくとも一種と、ジメチルシリル化無水ケイ酸とからなる油性リップコートである。さらに25℃における粘度が10～300c sであるジメチルポリシロキサンの配合量が90.0～98.0重量%、油溶性の油の配合量が1.0～20.0重量%、ジメチルシリル化無水ケイ酸の配合量が2.0～10.0重量%である該油性リップコートである。

【効果】口紅の上に塗布し、口紅がガラスや陶器製のカップへ色移りするのを防止し、かつ乾燥感のない油性リップコートを提供する。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 25℃における粘度が10～300c_sであるジメチルポリシロキサンの少なくとも一種と、油溶性の油の少なくとも一種と、ジメチルシリル化無水ケイ酸からなる油性リップコート。

【請求項2】 25℃における粘度が10～300c_sであるジメチルポリシロキサンの配合量が製剤総量を基準に70.0～97.0重量%であり、油溶性の油の配合量が1.0～20.0重量%であり、ジメチルシリル化無水ケイ酸の配合量が2.0～10.0重量%であることを特徴とする請求項1記載の油性リップコート。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、口紅の上に塗布し、口紅がガラスや陶器製のカップへ色移りするのを防止し、かつ乾燥感がない油性リップコートに関する。

【0002】

【従来の技術および発明が解決しようとする課題】近年口紅の上から塗布されその化粧効果の持続性を高める商品が多く実用化され発売されている。これらの商品のあるものにはパーフルオロポリエーテルやジメチルポリシロキサンといった口紅膜に混和しない原料にシリカやアルミナといった粉体を配合し、またあるものにはジメチルポリシロキサンにアルキルシロキシシリケートを配合することで口紅膜表面に薄膜を形成し口紅の色移りやにじみを防止している。しかしこれらのリップコートは塗布した際に比較的短時間のうちに乾燥感を覚えやすいという欠点を有していた。この点を解決する方法としてはエモリエント性の高い油溶性の油の配合が考えられる。しかしこれらの原料は口紅の油との相溶性を示し上述のリップコート剤に配合した場合に配合量に応じて口紅の色移りやにじみを防止する効果が低下するためリップコート剤への多量の配合が困難であった。

【0003】 すなわち、本発明は口紅の上に塗布し、口紅がガラスや陶器製のカップへ色移りするのを防止し、かつ乾燥感がない油性リップコートを提供することを目的としている。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明はジメチルシリル化無水ケイ酸が種々の液体をゲル化する作用を有しあつ親油性の表面を有するため油溶性の油に対して親和性が高い点に注目し、ジメチルポリシロキサン、油溶性の油およびジメチルシリル化無水ケイ酸の3成分を混合攪拌した場合にジメチルシリル化無水ケイ酸によりゲル化された油溶性の油がジメチルポリシロキサン中に微細に分散した一種のエマルジョン様を呈する事を発見した。さらに、これが口紅の上から塗布された場合にジメチルシリル化無水ケイ酸によりゲル化された油溶性の油は相溶性の高い口紅の油の方に移行するが、その表面に柔軟に固化されたエモリエント性の膜を形成し、口紅の色移り

やにじみを防止すると共に、乾燥感を防止する事を見出だし本発明の完成を見た。

【0005】 すなわち、本発明の請求項1は25℃における粘度が10～300c_sであるジメチルポリシロキサンの少なくとも一種と、油溶性の油の少なくとも一種と、ジメチルシリル化無水ケイ酸からなる油性リップコートである。

【0006】 また、本発明の請求項2は25℃における粘度が10～300c_sであるジメチルポリシロキサンの配合量が製剤総量を基準に70.0～97.0重量%であり、油溶性の油の配合量が1.0～20.0重量%であり、ジメチルシリル化無水ケイ酸の配合量が2.0～10.0重量%であることを特徴とする油性リップコートである。

【0007】 本発明に用いられる、25℃における粘度が10～300c_sであるジメチルポリシロキサンは公知の物質であり、その好適な配合量は70.0～97.0重量%である。25℃における粘度が10c_s未満になると口紅中の油成分との相溶性が発現しコート剤と口紅が混ざり好ましくなく、300c_sを超えると塗布時の粘性により口紅膜を動かし、やはりコート剤と口紅が混ざってしまい好ましくない。

【0008】 本発明に用いられる、油溶性の油は流動パラフィン、2-オクチルドデカノール、イソステアリルアルコール、オレイルアルコール、アジピン酸ジオクチル、オキシステアリン酸オクチル、コハク酸ジオクチル、リンゴ酸ジイソステアリル、イソノナン酸イソノニル、イソステアリン酸ジイソプロピル、オクタン酸セチル、オレイン酸デシル、イソステアリン酸コレステリル、オクタン酸プロピレングリコール、ジカプリル酸プロピレングリコール、ジカプリン酸ネオベンチルグリコール、トリイソステアリン酸グリセリド、ジイソステアリン酸ジグリセリド、トリ（カプリル、カプリン酸）グリセリド、トリオクタン酸トリメチロールプロパン、テトラオクタン酸ペンタエリスリット、スクワラン、タートル油、ミンク油、卵黄油、ヒトデルム、ひまし油、液状ラノリン、オリーブ油、ジパラメトキシケイ皮酸モノ-2-エチルヘキサン酸グリセリル、パラジメチルアミノ安息香酸2-エチルヘキシル、パラメトキシケイ皮酸2-エチルヘキシル等が挙げられる。なお、本発明はこれらに限定されるものではない。また、その好適な配合量は1.0～20.0重量%である。十分なエモリエント効果を発現できるという点で1.0重量%以上であることが好ましく、口紅との相溶性を発現しないという点で20.0重量%未満であることが好ましい。

【0009】 本発明に用いられる、ジメチルシリル化無水ケイ酸は公知の物質であり、その好適な配合量は2.0～10.0重量%である。十分な効果が発現できるという点で2.0重量%以上である事が好ましく、粘度が上がり過ぎずまた違和感が少ないといった点で10重量

%未満であることが好ましい。

【0010】本発明の油性リップコートには、本発明の目的を損なわない範囲で前記の必須成分以外に微量の無機着色剤、天然あるいは合成色素やタルク、マイカ等の白色粉体原料を配合することができる。

【0011】

【実施例】以下に実施例を挙げ、本発明を具体的に示すが、これに先立ち試験方法および評価項目に関して詳述する。

【0012】(評価方法)女性パネラー20名を用い、パネラーが口紅を塗布した後にリップコートを使用し、約1時間後に白色陶器製のカップにいれた暖かいお茶を飲み、カップへの色移りの度合いを目視にて判定した。評価は色移り防止効果に優れているものを○、やや優れているものを△、効果の無いものを×として評価した。また乾燥感の度合いを3段階で評価し、乾燥感の無いものを○、ややあるものを△、あるものを×とした。

【0013】実施例1

25℃における粘度が20c.sのジメチルポリシロキサン85.0重量%、スクワラン10.0重量%にジメチルシリル化無水ケイ酸5.0重量%を加え粗攪拌した後にローラーにかけ混合粉碎し、油性リップコートを得た。

【0014】実施例2

25℃における粘度が300c.sのジメチルポリシロキサン85.0重量%、スクワラン10.0重量%にジメチルシリル化無水ケイ酸5.0重量%を加え粗攪拌した後にローラーにかけ混合粉碎し、油性リップコートを得た。

【0015】実施例3

25℃における粘度が20c.sのジメチルポリシロキサン85.0重量%、ひまし油10.0重量%にジメチルシリル化無水ケイ酸5.0重量%を加え粗攪拌した後にローラーにかけ混合粉碎し、油性リップコートを得た。

【0016】比較例1

25℃における粘度が20c.sのジメチルポリシロキサン90重量%とスクワラン10重量%を混合し、油性リップコートを得た。

【0017】比較例2

25℃における粘度が20c.sのジメチルポリシロキサン85.0重量%、スクワラン10.0重量%に無水ケイ酸5.0重量%を加え粗攪拌した後にローラーにかけ混合粉碎し、油性リップコートを得た。

【0018】比較例3

25℃における粘度が20c.sのジメチルポリシロキサン95重量%にジメチルシリル化無水ケイ酸5.0重量%を加え粗攪拌した後にローラーにかけ混合粉碎し、油性リップコートを得た。

【0019】比較例4

25℃における粘度が6c.sのジメチルポリシロキサン85.0重量%、スクワラン10.0重量%にジメチルシリル化無水ケイ酸5.0重量%を加え粗攪拌した後にローラーにかけ混合粉碎し、油性リップコートを得た。

【0020】比較例5

25℃における粘度が400c.sのジメチルポリシロキサン85.0重量%、スクワラン10.0重量%にジメチルシリル化無水ケイ酸5.0重量%を加え粗攪拌した後にローラーにかけ混合粉碎し、油性リップコートを得た。

【0021】実施例および比較例について、前記評価結果を表1に示す。

【0022】

【表1】

	実施例			比較例				
	1	2	3	1	2	3	4	5
色移り防止効果	○	○	○	×	×	○	×	×
乾燥感	○	○	○	○	○	×	○	○

【0023】表1に示す通り、本発明の25℃における粘度が10~300c.sであるジメチルポリシロキサンの少なくとも一種と、油溶性の油の少なくとも一種と、ジメチルシリル化無水ケイ酸からなる油性リップコートは、色移り防止効果および乾燥感の両項目において共に優れたものが得られ、比較例より明らかに優れていた。

【0024】

【発明の効果】以上記載のごとく、本発明の油溶性の油およびジメチルシリル化無水ケイ酸が口紅に及ぼす効果は明らかであり、本発明が口紅の上に塗布し、口紅がガラスや陶器製のカップへ色移りするのを防止し、かつ乾燥感のない油性リップコートを提供することは明らかである。